

令和4年度
公私幼保合同研究会まとめ

保育実践研究会



大阪市保育・幼児教育センター

ねらい

感じたことや考えたことを自分なりに表現する力を養い、感性や創造性を豊かにする教育・保育内容について考える。

講師

造形教育研究所

「こどものアトリエ」

代表 村田 夕紀

テーマ

子ども主体の造形あそび
～一人ひとりの豊かな表現を育むための
造形活動の在り方を探る～

内容・研究の方法

- ・「子ども主体の造形あそび」について実践を行う。
- ・2回の研究保育、子どもの作品、実践記録を持ち寄り報告し、担当年齢別の少人数のグループや全員で、意見交流し検証する。

参加園所

幼保連携型認定こども園
グレースこども園

大阪市立住吉保育所

みつばさ保育園

大阪市立大淀保育所

大阪市立矢田教育の森保育所

大阪市立柏里保育所

大阪市立東小橋保育所

大阪市立加美第2保育所

AIAI NURSERY 鷺洲

大阪市立瓜破保育所

大阪市立阪南保育所

大阪市立三国保育所

認定こども園 愛和学園

大阪市立南大江保育所

大阪市立西大道保育所

大阪市立長吉第1保育所

大阪市立梅本保育所

大阪市立鷹合保育所

大阪市立松之宮保育所

第2住之江保育園

大阪市立御幸保育所

大和幼稚園

大阪市立鳴野保育所

大阪市立鯉江保育所

大阪市立姫島保育所

にじのとり保育園

大阪市立味原保育所

大阪市立南津守保育所

大阪市立野田保育所

大阪市立浪速第1保育所

実施一覧

回数	日時	場所	内容
①	令和4年6月14日(火) 13:30~17:00 (15:00~乳児保育・教育理論研修会と合同開催)	保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・グループ分け ・グループ演習 ・幼児グループ(技法のあつかいについて) ・乳児保育・教育理論研修会に参加
②	令和4年7月20日(水) 13:30~17:00 (15:00~保育・教育理論研修会と合同開催)	保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の検討(各グループ1事例) ・保育・教育理論研修会に参加
③	令和4年8月25日(木) 9:30~11:00 14:00~17:00	大阪市立保育所 保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・研究保育 ・研究保育カンファレンスと指導助言 ・実践事例の検討
④	令和4年11月1日(火) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の検討 ・指導助言
⑤	令和4年12月9日(金) 9:30~11:00 14:00~17:00	認定こども園 保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・研究保育 ・研究保育カンファレンスと指導助言 ・振り返りシート・アンケートと指導助言
⑥	令和5年1月13日(金) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・造形あそびにおける「子ども主体」とは(講義) ・実践事例計画書のグループ検討 ・指導助言
⑦	令和5年2月24日(金) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・各メンバーからまとめの発表 ・講師からの総評

第1回（令和4年6月14日）

◆グループ討議「造形活動を進める中での 悩みや課題」について（クラス年齢別）

◆保育実践について

・『染め紙』『デカルコマニー』（※「2・3・4・5歳児の技法遊び実践ライブ」参照）

「この技法、どうすれば遊びになるかなあ」と保育者は考えてみる**ことが重要!!**

あそびの次の
展開を考える!!



子どもは「たのしい!」と感じたらどんどんやりたがる ⇒ **考える子どもに!!**

・『トンネルいっぱい!みんなで絵かき』『指人形をつくろう!』※「3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ」参照
保育者が一緒に遊び楽しい雰囲気をつくる**ことが重要!!**

保育者や友達との会話が弾む⇒ **子どもと子どもがつながる**

<講義> 「子ども主体の造形あそび」造形あそびを通して育みたい子ども力～0.1.2歳児編～

◆今までの0.1.2歳児の造形活動について

◆造形あそびを通して育みたい力「**自主性**」と「**社会性**」について

◆人的環境として関わる保育者について

◆0歳からの造形あそびとは⇒ **遊びから、学びへ**

保育者は共感するタイミング
が大切

◎子どもの成長を記録しよう

・「子ども理解のために」・・・成長の過程や特徴（個性）が見えてくる。

・「保育の質の向上のために」・・・振り返ることで保育の改善や専門性の向上につながる。



第2回（令和4年7月20日）

◆実践報告（グループ1つ記録・作品を持ち寄る）

《実践内容》0歳児「スポンジで遊ぶ」 2歳児「カタツムリ制作（シールはり） 2歳児「新聞あそび」
3歳児「七夕制作」（四角つなぎ） 3歳児「ステンドグラスの魚のモビール」



《実践から学んだこと・課題》

- ・あそびの「おしまい」の時間は子どもが自分で決める
- ・保育者は造形あそびの一番面白いを主にするとよい
- ・光を通す素材と通さない素材に気付く
- ・どんなふうに貼るかは子どもが自分で決める
- ・子どもたちの姿から大人が工夫していく

＜講義＞ 「子ども主体の造形あそび」造形あそびを通して育みたい子どもの力
『豊かな表現を支える保育者の指導と援助』～3・4・5歳児編～

- ◆3・4・5歳児の造形あそびとは、「かいたり・つくったり・あそんだり」
- ◆「どの子も同じように」を願うのではなく「どの子も自分なりに」を目指す指導や援助が大切！
『指導』は入口（きっかけ）で、子どもの数だけ出口（表現）がある。
- ◆描くことに興味をもち、その楽しさを十分に味わえるような経験を積むことが必要
- ◆具体事例をもとにいろいろな素材経験や適切な指導の積み重ねを行うことで子どもの豊かな表現が生まれる

第3回（令和4年8月25日）

(1) 研究保育の検討(大阪市立保育所・3歳児クラス)『スタンプング』



《研究保育からの気付き(担任より)》

- ・子ども同士の会話が聞けた・自分だけのスタンプングから友達と楽しむ活動になっていた
- ・「あんなことしてる」「次、自分もやってみよう」と、子どもたちは友達を意識していた
- ・1時間遊んでいた・いろいろとあそびが展開したので「やっていいよ」という声かけになった
- ・グループで取り組んだが途中でグループが崩れてしまう・準備に時間と労力が必要だった
- ・「主体的」ということに悩んだ
- ・担任自身の発見が多く、制作で今日のような子どもの表情が見られたのは初めてだった



《指導助言》

- ・「みんなであそぶ」のねらいだけに終わらない活動になり、個人作品ではなくなった
- ・子どもが「おしまい」といっても、その子の姿をしっかりと捉えてことばをかける
- ・『声をかける』ではなく『ことばをかける』・・・『ことば』はその子その子に合うことば
- ・大人は静かにあそびが広がるように、環境を準備していくことも大切

手に付くことを絶対に嫌がる子には、真っ白できれいなタオルを準備しよう!!

- ・少しでも手についたら拭く⇒丁寧に保育者が関わりながら徐々に子どもに任せていく
- ・絵の具も薄い、柔らかい色から始める。

(2) 実践事例を持ち寄りグループ討議する



第4回（令和4年11月1日）

◆各グループで実践事例検討をする。

- ① 各グループで、まず実践事例検討をする。 ②各グループから報告し全体で共有する。

《指導助言》

- ・ 乳児のシール貼りは、シルエットではなくそのものと分かるものに貼るのがよい。
そうすることで、子どもが様々な貼り方をする。丸の中だけ貼る・縁をずっと並べて貼る・丸を避けて貼るなど。
⇒一人ひとりの様子やその子の興味等を知ることができる。
- ・ **何かにしようと具体的な形にしてしまうと、保育者の指導がしっかり必要となる。**
『その子の個性が出るようにするにはどうすればいいか』を考える。
- ・ 感触あそび・・・触れるものは何でも感触あそびになる。トイレトペーパー・スズランテープ・緩衝材など。
安くて大量にあるものを見つけるとよい⇒大量に集められる物（乳酸菌飲料の空き容器など）
- ・ 容器があれば入れたくなる。（ホース・ストロー・箸・ブロック・洗濯ばさみ などなど）
- ・ **「他に何かあるかなあ？」と考えることが大切。**
- ・ **本来の子ども主体の造形とはどのようなものなのだろうと感じてもらえるものがある。**

「描きたい！」を描けるように・・・

子どもたちが「描くことは怖いことじゃないんだよ」という経験を積み重ねられるように、保育者は手間暇をかけてほしい。



第5回（令和4年12月9日）

◆研究保育の検討（認定こども園・0歳児クラス）『乳酸菌飲料の容器を使ってあそぶ』 《研究保育を終えて（担任より）》

- ・「自分であそびを見つける」「自分であそびを考える」を大事にしている。
- ・いつもは長くて30分程だが、今回は1時間弱遊んでいた。

《指導助言》

◎保育者の関わり方や環境構成がよかった。

- ・子どもの動作を思わず真似てしまう保育者
- ・子どもが真似をしたくなる保育者の働きかけ
- ・子ども同士がイライラしない環境
- ・平行あそびだが同じ場所で2人で遊ぶ子どもの姿
- ・おもちゃを「ジャー」とひっくり返した時に「きっとするだろう」という予測のものに見守っている保育者
- ・今の環境から、一つ新しいおもちゃを提供することであそびが広がるだろうと思った時のさりげないおもちゃの提供
- ・保育者と子どもとで目を合わせ応答的に遊ぶ姿

《講義》『子ども主体』って何だろう

○「子ども主体」とは造形だけではなく、保育全般に言えることである。

- ・「一緒に寄り添うとは？」・させるために寄り添うのではなく、「ここ（保育所や保育室）がなんだか心地よい空間だよ」という思いをさせるような働きかけのこと。
- ・子どもの興味・関心がどこにあるのか「子どもの様子（姿）」を見る（捉える）
⇒それを子どもの成長発達の状態に合わせて、あそびや環境構成に生かす。
- ・日々今の状況においての子ども主体を考え、より良い空間にしていく。

○子どもの「遊ばない」「すぐにあきる」はなく それはあそびが子どもに合っていないだけ!

○同じ材料でも各々が自分に合った遊びをしている（すべての子どもに合う遊びはない）



第6回 令和5年1月13日

◆造形あそびで「子ども主体」をどう捉えるか

- ・造形では「子ども主体」だけでは成り立たないことがある。
- ・子どもの年齢・その子の認識の状態を保育者は把握したうえで、「どう育ってほしいか」という思い(願い)に見合った環境を準備する。そのことで、初めて子どもの主体性が発揮できると考えている。

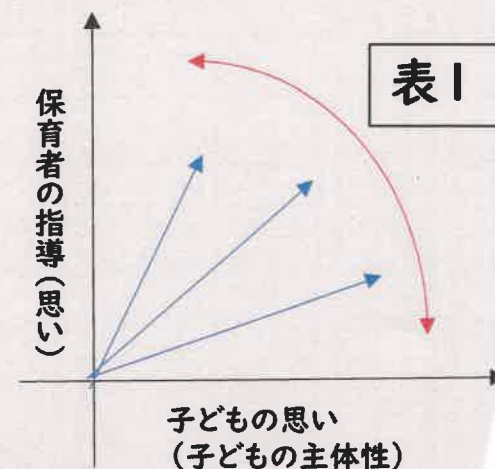


表1 より

- ・縦軸(保育者の指導)・横軸(子どもの思い)の振れ幅(\longleftrightarrow)を調整し意識しながら保育することが重要。
 - ◎子どもの基礎知識の認識の状態を保育者が把握しながらモノの使い方を少しずつ教える。
 - ◎子ども一人ひとりに合わせた援助や指導が必要。
 - ◎指導があそびの入口になっても
 - ①そこから子ども主体の部分はどう工夫するか。
 - ②この活動を通して何を育てたいか。
 - ③そのために指導はどうするか。

ここを考えながら進めていくことが大切になってくる

◆各グループ実践事例(計画書)を検討(下記の3つの視点に沿って)する。

- ①子どもが楽しめる活動になっているか ②年齢に見合っているか ③子ども主体の活動になっているか

第7回 令和5年2月24日(最終回)

◆参加メンバーから「まとめ」報告を発表をする。

①実践者報告 ②参加者からの感想 ③講師からの助言 の流れで報告会をする。

◆実践を通して

- ・事前準備には時間がかかり、大変であるが「子どもの思いを満たすだけの十分な数を準備することで、子どもから発想が生まれあそびが展開され、保育者の予想以上にあそびが長く続いた。
- ・『言葉かけを最小限にして、見守る』という「我慢する」ことは、とてもしんどく大変なことだったが、その分子どもたちの様子をしっかりとらえることで子どもの「声」に気付くことができた。

◆指導助言

- ・複数の造形あそびをする場合(例えば:シール貼り+なぐり描き)、どちらを先にするかで、子どもの貼り方や描き方は変わる。
- ・**保育者がやってみたい活動と今の子どもの姿(成長・発達)に合った活動は違う。**
「造形あそび」には、適性の年齢や、「あそび」の意味(ねらい・何を育むか)がある。
子どもがやりたいものだけでは時間をかけ事前準備をしっかりとあそびがうまく展開されないことがある。そのためにも、今の子どもの姿と子どもの成長発達を考慮して活動を選択することが重要である。
- ・活動の中に、少し困難なものをあえて準備することで子どもが自ら考え・工夫することができ、子どもが楽しめるであろうと思われる。
- ・「共感すること」を忘れない。

保育の中で子どもと目が合う・
うなづく、それだけで共感になる。
|つひとつ口を出す必要はない。
子どもは共感してほしい!!と思っている。

